

# 外国籍県民かながわ会議（第13期・第10回） 議事録

開催日：2025（令和8）年4月26日（日曜日）

場所：神奈川県庁 エネルギーセンター棟 EC会議室1、EC会議室2

## 1 開会（事務局）

新事務局、アドバイザー、委員の紹介、会議のルール、会議の録音、欠席者

及び配布資料等について説明した。

（柳委員長）

- ・ オープン会議の振り返りと本日の会議の進め方等について説明した。

## 2 グループ別協議（提言素案に関する協議）

### (1) 生活向上部会（対面参加）

#### ア 生活向上部会－⑨について

（柳委員長）

- ・ オープン会議のアンケートで、「自治体では、外国籍住民に対する災害情報の発信を強化しているが、災害後に関する情報発信は不足していると感じた」という意見があったが、その点はどうか。

（韓委員）

- ・ 日本人に対する災害後の支援も足りていないなか、このタイミングで外国人に対する災害後のことを考えてください、というのは厳しい。

- ・ この提案の会議の目的は自助活動。外国人コミュニティが集まって、災害時に関する情報をどうするか、災害後の生活をどうするかという部分において、自分達で自分達を助けるという考え方の情報連絡システムを作っておいた方がよい。

（富本アドバイザー）

- ・ 外国人が災害弱者として困っているという記載になっているが、韓委員がおっしゃるとおり、外国人は自助活動のほか地域のために自分も復興支援に関わろうという方もいらっしゃると思うので、外国人もこんなことができるということを入れた上でのパートナーシップだとよい。

- ・ 災害時に県と財団が災害多言語支援センターを設置することに備え、

定期的に研修・訓練など防災関係の事業をしている。センターが立ち上がる  
と情報グループでコミュニティの様子を把握することになるので、  
県としては、これをする理由にもなる。

- ・ 外国籍県民が活躍できる場があるということをアピールしてもよい。

(柳委員長)

- ・ 既存と新規のコミュニティを繋げることに役立つ。
- ・ 平時から横の繋がりを作っておくという視点も入れられたらよい。

(韓委員)

- ・ 会議開催の必要性について、災害が発生したときに行政が動かなくても  
も自動的に活動できる状況にするのが望ましいという趣旨だと考えて  
いるので、そのための投資と考えてもらえればよい。

- ・ 平時のオールドカマーとニューカマーの交流については、優先順位は  
低い。災害を目的にした方がよい。

(柳委員長)

- ・ 何か理由がある方が集まりやすいのは理解できる。災害を目的に集ま  
るが、コミュニティ同士が顔を合わせる機会として参加意識の中に捉え  
られるとよい。

(韓委員)

- ・ まとめると、私の意図は自助活動のための平時の集まりであるので、  
災害弱者や、外国人を助けないといけないといったニュアンスは削除す  
る。外国人が自助活動できるように平時から集まるという中身にしたい。

## イ 生活向上部会⑥について

(倉橋委員)

- ・ オープン会議で、ライフスタイル全般を対象にしたものに関する意見  
もあったが、やはり高齢者向けが大切。高齢者を助ける周りの人や家族に  
とっても役に立つ。

(韓委員)

- ・ 提言内容としては3段階が考えられる。チャートを作成することと、  
チャートを多言語化することと、その活用について説明すること。

(柳委員長)

- ・ どこまでできるかは県に検討してもらうことになるが、提言としては

3段階をまとめて載せることにする。

(富本アドバイザー)

- ・ 「外国人介護労働者向けセミナー」は「行政・施設関係者向け」とするのがよい。

## ウ 生活向上部会③について

(富本アドバイザー)

- ・ 根拠データについて、財団で調査している、神奈川県内の国際教室がある中学校在籍の卒業生の数であれば、国籍に関係なく、外国につながるりのある子どもの数として適切だと思う。

(柳委員長)

- ・ 中学校で今学んでいる子どもと、高校を卒業してから来日する生徒の数も入った方がデータとしてはよい。

(富本アドバイザー)

- ・ 枠だけ増やしても、入った後何のサポートも無ければやめてしまうので、枠を拡大したらその学校の支援体制も充実する必要がある。

(韓委員)

- ・ 枠を増やす方向で提言を残すのであれば、先生をどのように支援するかということも考える必要がある。

(柳委員長)

- ・ その部分は付け加える必要がある。先生にしんどい思いをしてください、と言いたいわけではないので、枠を広げたら学校の中での支援体制や教職員の環境も整えてほしいと入れないといけない。

(韓委員)

- ・ 高校が外国人を受け入れるプラスの面に触れた方がよい。今は厳しいかもしれないが、将来を見据えて受け入れた方がよい、という説明を追加した方がよい。今後グローバル化が進み、日本人も外国人と混ざって仕事していくことを見据えて、外国人と混ざって教育を受けることはよい面がある。

(柳委員長)

- ・ 特別枠の拡充をそのまま求め、先生の環境整備も入れる。学校の外国人の受け入れにはよいことがある、という説明を追加する方向で

みなお  
見直す。

とみもと  
(富本アドバイザー)

- ・ フリースクールで1年勉強してから受験することについて、不利で損  
してしまうような記載がある。中学でしっかりと日本語の準備ができず  
に高校に入ってやめてしまう生徒もいるので、フリースクールで1年間  
勉強してから受験する方がよい場合もある。15歳だから高校受験する、  
というのではなく、もし16歳や17歳であっても、中学校で受け入れて  
しっかりと準備してから高校に入った方が、1～2年遅れるが高校で  
勉強が続けられる、という考え方もあるので、文章を見直した方がよ  
い。

ゆい  
(愈委員)

- ・ 中学3年生に加えてフリースクールで学んだ人も一緒に受験するから、  
受験者数はもっと増えるということが言いたかった。

りゅう  
(柳委員長)

- ・ 中学生とフリースクールの人数が分かるデータがあれば追加する。
- ・ そのデータを根拠に、受験する人数が増えるので在県枠を拡大してほ  
しい、ただし、増やす場合には学校側の先生の環境整備も考えてほしい、  
と記載する。
- ・ 特別枠を増やす理由として、受け入れた場合のプラスの面を追記する。

## エ 生活向上部会②について

とみもと  
(富本アドバイザー)

- ・ どこで、誰が、どうやってするかということを整理した方がよい。全部  
の高校で国際理解教育を一年間するというのは非常に大変。1つでもで  
きる高校が増えるとよい。
- ・ また、小中学校ではなく、高校で行う理由があれば書いた方がよい。

りゅう  
(柳委員長)

- ・ 高校生にこういう教育をすることで、高校生ができるようになること  
がこれだけある、など。李委員の考えとして、お互いに理解する中で、  
一緒に異文化の中で生きていくことを考えられるようになる、というこ  
とがあると思うので、それを膨らませてはどうか。
- ・ 「国際理解教育」という言葉を使うことがどうか。「多文化共生」も

人によってイメージが違ったりする。「国際理解」という言葉がよいのかどうか、提言を完成させる前にもう一度考えてみた方がよい。「国際理解」は違う国について知るというイメージが強くなってしまふ。一緒に暮らしている人の中で違う文化を理解して生きていく、という意味が「国際理解」という言葉では入りきらなくなるのではないかと思う。

## オ 生活向上部会①について

(富本アドバイザー)

- 日本語教育の考え方が変わってきた。日本語の力だけで能力を判断しないでください、ということも入るとより良くなる。文科省も言っている「ことばの力のものさし」という考え方。

## カ まとめ

(柳委員長)

- 皆で出し合った意見を踏まえてそれぞれの提言を直す。データが分からないなどあれば国際課に聞く。

## (2) 生活向上部会 (オンライン参加)

### ア 生活向上部会④について

(王委員)

- 現状、在留カードの更新手続きについて課題があり、このことを広く認識してほしいので、個人的には提言の必要があると考えている。

(事務局)

- 課題としての重要性はもともとだが、在留資格は国(出入国管理庁)が所管し、その更新手続き等の窓口は市町村が行っている。このことについて、理由に入れていただいた「県が管轄する範囲」が存在しない。県へ提言していただいても、県としてできることがないため、提言として出すのは難しいのではないか。

(王委員)

- そういうことであれば、提言としては取り下げるのでよい。

### イ 生活向上部会⑤について

おういん  
(王委員)

- ・ 外国免許の切替をする際の予約にかかる時間として、例えば、今日予約に行ったとして、審査を受けられる予約枠は3ヶ月後になる。その間は、例えば、ドライバーになりたい人などは就労できない。

じむきょく  
(事務局)

- ・ 日常生活においても、車が運転できないと普通に生活が難しい場面があるという話と思われるので、待機期間の長期化の中身として、3ヶ月程度みたいなことを書き、その間はドライバー等の役職につけない、車を使っての生活に支障が出るというような形の表現にする。

おういん  
(王委員)

- ・ それでよい。

じむきょく  
(事務局)

- ・ 外国免許の切替については昨年秋に厳格化されたが、これにより試験の通過率が変わって予約の混雑状況に変化等はあったか。

おういん  
(王委員)

- ・ 私は厳格化前の試験に参加したが、その例を挙げると、申込みから実際の書類審査まで2ヶ月～3ヵ月、その後の実技試験の予約を取るのも2ヶ月程度必要になる。厳格化したことで、もっと長くなると想定される。

じむきょく  
(事務局)

- ・ つまり、試験を通る人が少なくなるから、切替の対象者が少なくなるということではなく、免許を取りたい人自体は変わらないので、行く回数が増えるなど、予約自体が取りやすくなることはむしろなくて、問い合わせも含めて大変になるということか。

おういん  
(王委員)

- ・ はい。また、予約の混雑について、1日の枠があり、それが10人もなく、13人や15人の枠の実技試験や書類審査の筆記試験など、それぞれ予約の人数が限られているため、現場での混雑ではなく、試験や手続きに行きつくまでにとっても時間がかかるということである。

じむきょく  
(事務局)

- ・ 富本アドバイザーから、この提言のタイトルは「外国免許切替手続における混雑緩和に向けた取組」だが、予約の取りづらさや予約の日までの時間がかかる(予約枠が少ない)といったことがわかるように、「混雑緩和」

ではない表現の方がいいかもしれない、とのアドバイスがあった。

(王委員)

- もともとは、予約をとるための電話が全然つながらないところから、「混雑」という言葉を使った。

(ドン委員)

- 厳格化など新しいルールが適用されている今の状況を反映した提言になるといいのではないかと思った。
- また、予約に係る混雑の話も含めて、外国人に対してどうしたらわかりやすく、簡単に手続きが進むのかという流れがわかればいいと思った。

(王委員)

- ドン委員の言ったとおり、必要な資料などわかりやすく教えてもらえる  
と助かるが、これについて運転免許センターにヒアリングを行ったところ、それぞれ外国人の所属する国によって提供できる情報や発行できる書類が違い、また、個人情報の問題もあるので、予約をとって直接相談をしてやりとりをするしかないとのこと。そのため、内容の「混雑緩和に向けた取組の推進」の部分は、県警側の配慮や事情から、詳しく書かず、提言して相手側に検討してもらおう形にした。

- 手続きの流れについて再度説明すると、まず、電話などで必要書類が何かなどの確認をするための予約が必要で、この確認が終わると、2回目の予約で、指示された書類を提出し、審査と筆記試験となる。1回目から2回目までの期間が3ヵ月程度。2回目の審査時に書類に不備があると持ち帰り、不足しているものを揃えて、1回目の予約からやり直しになる。

(事務局)

- 提言の趣旨としては、「混雑」というよりも、全体的に切替手続きにかかる時間が長いこと、また、最初の予約をとるための電話が繋がらないということと  
思う。そうすると、タイトルは「外国運転免許切替手続きにおける円滑化に向けた取組」のようにした方がいいかもしれない。全体として、  
手続きがスムーズにいったほしいという話かと思う。

- また、理由の3ポツ目については、センターで長時間待つという形の問題ではないので全体的に削除し、4ポツ目は外免切替の厳格化が既に実施されていることがわかる表現にする。さらに、内容と理由ともに「関係機関と連携しながら」としているが、外免切替に関わるのは県警と

めんきょ  
免許センターだけなので、ここは「連携」を削除した形の表現にする。

おういん  
(王委員)

- 内容を「書類審査及び筆記試験における予約方法の見直し」と「混雑緩和に向けた取組の推進」にしたのは、前者は直接の予約方法の見直しまで、後者は予約枠を増やすなどこちらでは勝手に検討できないことについて考えてもらいたいという趣旨だった。
- また、内容の1ポツ目は、全体的話であり、その中身として2ポツ目と3ポツ目なので、1ポツ目は「・」を外してほしい。

じむきょく  
(事務局)

- それでは、内容の1ポツ目は「・」を消し、2ポツ目は予約方法の見直しとして「インターネット予約システムの導入を含めて見直しを検討し、予約受付に係る利便性の向上や混雑の緩和及び解消につなげる」とし、3ポツ目はタイトルを「手続きの円滑化に向けた取組の推進」にして「～手続き期間の短縮や円滑化を進める」といった形に整理したい。

## ウ 生活向上部会⑦について

いいん  
(ドン委員)

- AIの導入について、インフラ整備に係る費用がどれくらいか、また、AIそのものの信頼性が皆不安に思っているようであり、私も知識は及ばないところではある。しかし、だからといって何もしないのではなく、既に持っているデータの分析や、日本語教育に関する情報の整理や配分など、AIを入口としてできそうなことや、できることを始めていきたい。
- 例えば、日本語教育や多言語の行政支援について、AIを活用できるようなシステム開発をして、既存のものを効率化し、最終的にデータから、日本語教育なら学習指導や定着状況などを分析して、その人にあった職業や子育ての関連情報を提供することなどができないかと思う。

じむきょく  
(事務局)

- これまでの部会別協議でも出た意見として、AIを導入しただけですべてが解決するわけではないということは留意して考える必要があるというものだったが、それについてはいかがか。

いいん  
(ドン委員)

- AIの正確性については難しいが、人間の代わりではなく人間のサポートとして考えており、そういったことがわかるような形の提言にしたいと思っている。

(事務局)
- AIの信頼性やできることの範囲がわからないこと、また、AIを導入してそのままにするのではなく技術として入れて人間が考えていくものである、ということについて、提言の内容に「ただし、AIは問題解決の手段であり、導入のみですべてが解決するわけではないため、運用では人による判断、検証、改善を予定とする」という表現を入れ、理由にそれに対応する補足はつけない形にしたい。
- また、理由の2の1ポツ目について、「愛知県・大阪府も～」の前の「近隣の」は誤記なので削除、2ポツ目文末の「人手不足の解消に寄与する必要がある」は「解消することができる」に表現を変えたい
- 理由の3の2ポツ目について、「～高度人材や、今後増えることが見込まれる育成就労制度外国人が～」の部分は、育成就労制度で在留する外国人は長期滞在が基本的に想定されているわけではないことから、「～高度人材などの外国人が～」という表現とし、育成就労制度だけでなく今後在留資格の名称や区分が変更された際にも対応できる形にしたい。

(ドン委員)
- 言葉遣いについては、変えてもらってよい。

(事務局)
- 具体的に何をするかなど加えたいことはあるか。

(ドン委員)
- 他県の事例をみながら考えたいところはあるが、実際、AIでどこまでできるかはわからないところがあるので、もう少し調べてみたい。

### (3) 生活向上部会（交流事業・生活向上部会-⑧）

#### ア 多文化交流機会の拡充について

(事務局)

- オープン会議の意見を踏まえ、今回ブラッシュアップしたい。多文化交流イベントについて、県の役割や集客について深掘りしたい。県の既存事業であるKANAFANステーションの担当者にヒアリングを実施した。

りょうり しょく かん ないよう こうりゅうじぎょう じっし たか うかが  
料理や食に関する内容の交流事業は、実施のハードルが高いと伺って  
いる。

(バ委員)

- 現在の提言から食に関する内容を削除することは問題ない。

(事務局)

- 削除することで、代替として記載したい取組例はあるか。

(郷原アドバイザー)

- 多言語での防災訓練の実施や公立学校へ出張授業はどうか。多文化  
共生意識の醸成を図ることが出来ると考える。
- 交流とは別の目的を同時に持つことで、集客しやすくなるのではない  
か。

(バ委員)

- 防災は既に他の提言で検討しているため、この提言では難しいと考  
える。また、言語交流やカルチャーショックなど文化を学ぶことは面白い。

(李委員)

- 既存の生活を学ぶイベントには、外国人の参加が少ない。

(事務局)

- 交流の提言では、生活関連の内容に焦点を当てるのか、文化関連の  
内容に焦点を当てるのか。どのような方向性にしていきたいか。
- または、どのような多文化交流であると集客が出来ると考えるか。

(バ委員)

- 現在は、音楽やスポーツを取組例としてあげているが、言語交流を含  
めたい。現在の参加者は少ないかもしれない。

(郷原アドバイザー)

- 中高生の取組に興味がある。中高生は塾、習い事、部活を軸に生活し  
ているため、他の提言と関連するような出張講座を行うべきだと考  
える。探求学習の時間に実施するなどの調整を県が実施するとよい。
- 外国人だけでなく、日本人にもメリットがある視点にするとよい。

(事務局)

- 多文化交流の促進という面で、提言の中で場所を限定したいなど、ど  
のような形態での開催を考えているか。

(バ委員)

- ふるさとやスポーツなどについて、授業じゅぎょうのような発表形態はっぴょうけいたいで学びながら交流こうりゅうを促進そくしんしたい。

(事務局じむきょく)
- 誰かが登壇とうだんして授業じゅぎょうを行うことを想定そうていしているのか。その形態けいたいでは、交流こうりゅうが難むずかしいように思おもわれる。

(郷原アドバイザーごうはら)
- 自己紹介じこしょうかいのタイミングで自国じこくの紹介しょうかいを行うことや、国くにに関するクイズを実施じっししたことがある。その後ご、グループでディスカッションをするイベントを実施じっしした。

(事務局じむきょく)
- 現在の提言ていげんでは多文化交流たぶんかこうりゅうイベントの拡充かくじゅうとあるが、イベントだけではなく、様々な形態さまざまを想定そうていしているか。

(バ委員いいん)
- 多文化交流たぶんかこうりゅうの開催形態かいさいけいたいは限定げんていしない方向ほうこうで提言ていげんしたい。

(郷原アドバイザーごうはら)
- 生活向上部会せいかつこうじょうぶかいで防災ぼうさいについて提言ていげんしている。連携れんけいした提言内容ていげんないようでもよいのではないか。

(事務局じむきょく)
- 県の役割けん やくわり、立ち位置たち い ちについて考かんがえていることはあるか。

(バ委員いいん)
- 県けんが多文化交流たぶんかこうりゅうとして提供ていきょうする機会きかいの広報強化こうほうきょうかや拡充かくじゅうが必要ひつようである。

(郷原アドバイザーごうはら)
- 既存きぞんイベントで人ひとが少ない理由りゆうは、ターゲットしぼを絞しぼっていないからだと思かんがえる。中高生ちゅうこうせいであれば、出張しゅつちやう授業じゅぎょうをするなど、ペルソナしぼを絞しぼることで事業じぎょうが円滑えんかつに進すすむと考かんがえる。
- 支援しえんが必要な外国人ひつよう がいこくじんには日本語にほんごを話はなせない人も多ひといと考かんがえられる。どのような外国人がいこくじんにアプローチかんがをするかについても考かんがえる必要があるひつよう。

(事務局じむきょく)
- バ委員いいんは、本提言ほんていげんでターゲットしぼを絞しぼりたいか。または提言ていげんの中なかでは限定げんていせず、対象たいしょうを絞しぼることを記載きさいするなど、どのような提言ていげんを作成さくせいしたいか。

(郷原アドバイザーごうはら)
- 県けんとして支援しえんするべき対象たいしょうは、日本語にほんごが話はなせず、言語げんごに壁かべを感じるかん

がいこくじん かんが  
外国人であると考える。

(バ委員)

- 対象については検討したい。外国人と日本人の考えを理解できるような相互理解を促進出来る機会の拡充を行いたい。

(郷原アドバイザー)

- スポーツは参入壁が低く、誰でも参加しやすいと考える。

(バ委員)

- 日本は夏にイベントが多いため、外国籍の人も参加するとよい。

(事務局)

- 新規機会の拡充と同時に既存のイベントに対して外国籍の人が参加する事を促進したいということか。

(郷原アドバイザー)

- 日本語が話せない人に対し、日本語教員の人と交流の機会を設定し、日本人ボランティアが交流しつつ教える人として入ることで、外国人と日本人が交流できるのではないか。

- 参加者の人は、日本語を勉強するという目的で参加する事も出来るため、参加者も増えると考える。

(事務局)

- 日本語教育などを提言に含めることに対してはどうか。

(バ委員)

- 提言としては、誰でも参加できる内容としたい。
- 毎月、外国籍の人が集まるようなイベントがあれば、イベント後に県のお知らせなどの県政情報を外国籍の人に周知することが出来る。
- 例えば、ルワンダでは、毎月1回、外の道を清掃するイベントがある。

## イ 外国籍県民の孤立・不安の解消に向けた取組について

(事務局)

- 互助会を実施する際の言語等、追記したい内容はあるか。

(李委員)

- 言語は限定せずに行いたい。
- 日本語を話せる人は、日本語で相談する、ホットラインで相談することが可能である。

ごうはら  
(郷原アドバイザー)

- ・ 県で外国籍の人に向けた、相談出来る互助会等の情報を流すことが出来るのではないかと。

いじん  
(バ委員)

- ・ 情報部会と同様の内容になるため、別のアプローチでの提言を想定する。

りいじん  
(李委員)

- ・ 外国人県民向けの取組としたい。理由としては、日本人に対する心理サポートは既にあるが、外国籍の人に対するサポートは少ないと思う。

じむきょく  
(事務局)

- ・ 互助会に参加する人の募集は言語ごととなるのか。

りいじん  
(李委員)

- ・ 事業を開始した際は、集まる人が少ない可能性も想定されるため、言語を限定せずに募集するとよいと考える。

じむきょく  
(事務局)

- ・ 母国語など言語を限定せず、日本語が話せない人が対象となると、互助会でどの言語で感情を共有するのかが問題となると思うがどのように考えているか。

ごうはら  
(郷原アドバイザー)

- ・ 心理サポートであれば、言語が通じることが大切ではないか。交流事業であれば、ワークを通してノンバーバル可能である。

りいじん  
(李委員)

- ・ 互助会はカウンセリングではないため、専門家が必要としない。そのため、集まった外国籍の方の問題を共有できる場として機能してほしい。
- ・ 言語だけでなく、国籍も限定しない互助会としたい。人に会うこと自体に重要性があると考えるためである。

#### (4) 情報部会

##### ア 生活向上部会－⑨(2)について

じむきょく  
(事務局)

- ・ 既存の資料を使って情報を届けるための仕組みを考えるという部会の趣旨が伝わるよう、2つの提言を1つにまとめ、タイトルを変更した。

→ 部会員が同意した。

(ストービー委員)

- ・ 就職時のオリエンテーションのように、外国人には生活オリエンテーションが必要。そこには防災情報も含まれる。

(事務局)

- ・ 県では、生活ルールを伝える冊子を作成するほか、日本語講座に生活オリエンテーションを組み込んで実施予定。県が主導して生活オリエンテーションを拡充させていくといった提言はできるかもしれない。
- ・ 今日、既にある情報がどうしたら手元に届くか、その際にはどこ連携が必要かについて議論を深められるとよい。

(ストービー委員)

- ・ Chat bot や AI の活用、人による伝達が考えられる。後者の方がよい。

(松村委員)

- ・ 何年もうまく情報が伝わっていない現状がある。

(蔣委員)

- ・ 県の日本語講座、県営住宅の抽選の説明会、外国人を雇用する中小企業の会合等に生活オリエンテーションを組み込めればよいのではないかと。

- ・ 入国するときリーフレットとして配れば少しは役に立つ。

(ハリソン委員)

- ・ 入国直後や図書館など身近な場に、日本語教室の情報や、役に立つウェブサイト等がまとめられたものがあるとよい。

(蔣委員)

- ・ 市町村のウェルカムパックに生活オリエンテーションの説明を同封できるとよい。

- ・ 外国人が多く住む団地に配ることも考えられる。

(ストービー委員)

- ・ コミュニティセンターや国際交流協会など、外国人が集まる場にチラシを送るとよい。

(蔣委員)

- ・ 小さい町では、外国人が入会している自治会経由で配ればよい。
- ・ 紙ばかりという意見もあると思うが、配らないとわからない人もいる。

(ストービー委員)

- ・ オンラインでも周知できるとよい。

(蔣委員)

- ・ 県と市、国際交流協会のウェブサイトのどれを見るかは人によって異なるので、それらを相互リンクするとよい。

(ハリソン委員)

- ・ 県のホームページは日本語で記載されており、情報が探しにくいいため、見ない。英語で作成された、個人が運営する YouTube 等を見てしまう。
- ・ 英語で検索した際に生活オリエンテーションの情報がすぐに表示されるとよい。または、ウェブページには、多言語対応やアップデートが必要。
- ・ Facebook による発信はセキュリティの問題から反対。オープンにされたウェブサイトの方がよい。

(ストービー委員)

- ・ 情報の窓口になるのが県のホームページ。役に立つ情報のリンクが必要。

(松村委員)

- ・ 旅行の際、県や市のホームページをよく見るが、神奈川県ホームページは複雑だと思う。

(蔣委員)

- ・ 外国人向けの情報はかながわ国際交流財団が発信している。

(ハリソン委員)

- ・ 少なくとも上位の人口に対応した多言語対応が必要。生活オリエンテーション等の動画には字幕が表示される設定にしてほしい。

(松村委員)

- ・ 国際交流ラウンジの日本語講座の受講者は Facebook から情報を得ている。ラウンジと連携して、Line や Facebook による周知も必要だと思う。

(蔣委員)

- ・ 広報の手段としてはありだと思う。

## イ 生活向上部会一⑨(1)について

(松村委員)

- ・ 横浜市の日本語支援拠点施設のひまわりでは、小学校1年生になる

保護者に対し、実際に使うものを紹介しながら、オリエンテーションを  
している。高校進学の説明会もそのように行った方がよい。

#### (蔣委員)

- ・ 県高校教育課が県内6か所で高校進学ガイダンスを行っているが、  
予約枠が埋まっている。全員が受けられるよう、機会の拡充が必要。
- ・ Me-net、ABC ジャパン、JICA など高校進学を支援する団体が増えてきた。
- ・ かながわ国際交流財団が進学情報も発信できるとよい。

#### (ハリソン委員)

- ・ 情報を持つ会社の申し出を受け、県のページと相互リンクしてはどう  
か。

#### (蔣委員)

- ・ 行政では厳しいかもしれない。
- ・ 学校では中3から進路の話をする。外国につながる保護者は、内申点  
や高校見学についてよくわからない。早めに情報を知り、無差別に教育  
を受けられる環境を整えたい。
- ・ 教育委員会と連携した情報発信が必要。

#### (事務局)

- ・ 本日のまとめとして、生活オリエンテーションについては、紙の広報(県  
の日本語講座、県営住宅の説明会、中小企業団体を通じた周知、ウェル  
カムパックへの封入、チラシ送付等)と、オンラインでの情報発信により、  
県主導で情報を届けることとする。情報は、多言語化やアップデート  
の必要がある。外国人の情報源は様々のため、県、市、国際交流協会  
のウェブサイトをクリックする。また、動画は多言語字幕の設定が必要。
- ・ 進学情報については、余裕をもって情報を知ることができるよう、県  
教委と連携してかながわ国際交流財団により情報発信を行うことを  
促す。

### 3 閉会(柳委員長)

- ・ オープン会議を経たことで新しい視点を得ることや提言を振り返る  
ことが出来た。提言の中にすべてを入れ込むことは難しいと思うが、  
提言が提出されることで、事業の入り口となる。外国籍県民かながわ  
会議はその役割として重要だと思うので、引き続き頑張りましょう。